

令和 7 年 2 月

東京都建設局

令和 7 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」
東京都の推薦作品が国土交通省において
最優秀賞及び優秀賞を受賞しました

国土交通省及び各都道府県では、毎年 6 月の土砂災害防止月間の行事の一環として、小・中学生を対象に、土砂災害防止に関する絵画・作文の募集を行っております。今年度、東京都においては絵画・作文合わせて計 66 点の応募がありました。

その作品の中から、東京都建設局長賞を受賞した絵画・作文について、国土交通省の実施する中央審査へ推薦したところ、下記の作品が最優秀賞（国土交通大臣賞）及び優秀賞（国土交通事務次官賞）を受賞しましたのでお知らせします。

「未来につなげる」ために

葛飾区立新宿中学校 三年

菅原 蒼生

来年度、私は高校生になります。進路や将来について考えることが増える中で、先日受けた理科の授業が、私の心に強く残りました。それは、平成二十五年十月に伊豆大島で起きた土砂災害について学ぶ授業でした。担当の先生は、災害のあとに伊豆大島の学校で勤務した経験がある方で、地域の方々から実際に聞いた話や、現地の様子を交えて教えてくれました。

先生は、「私は災害を直接経験してはいません。でも、災害の爪痕が残る場所で何年も働きながら、町の方々から当時の話を聞いてきました。」と語ってくれました。その言葉には、ただの教科書には載っていない“生きた記憶”が詰まっているように感じました。

先生によると、土砂災害が起きたのは、記録的な大雨が島を襲った夜だったそうです。土石流は山の上から一気に流れ下り、元町地区では大きな被害が出ました。川のようになった泥水が家を飲み込み、多くの人が命を落としたという話を聞き、私は自然の力の恐ろしさを感じました。

先生は、地域のあるおばあさんの話を紹介してくれました。「あの夜、雷のような音がして、外を見たら、もう家の前は川のようなだった。家族と一緒に逃げる時間もなかった」と。その声は涙混じりだったそうです。こうした話を何度も聞くうち、先生自身も、「伝えることの重さ」を感じるようになったと話していました。

また、この授業では「ハザードマップ」の話もありました。伊豆大島には災害前から土砂災害の危険を示す地図があり、実際に被害の出た場所は危険区域として色が塗られていたそうです。私は「ハザードマップって、見るだけで意味あるの?」と思っていましたが、この話を聞いて、そ

れが命を守るための“地図”なのだと初めて実感しました。授業の後、私は図書館で伊豆大島の災害跡地の資料を調べに行きました。十年以上が経っていても、山肌には崩れた跡がはつきりと残っていて、先生が「この場所に家があったんです。」と説明してくれたときには、想像もできないような恐怖を感じました。

現地では、災害を経験した地域の方のお話も聞くことができました。あるおじいさんは「こんなことになるなんて思っただけだった。でも、避難するって決めるのは、いつも難しいんだ」と話してくれました。その言葉の背景には、災害の恐ろしさだけではなく、“どこまで危機を自分ごととして受け止められるか”という人間の弱さもあるように感じました。

ハザードマップを見ても、それを「本当に危ない」と思えるかどうか。自分自身がそれを信じて、早く動けるのか。私は、その難しさと大切さをこのとき強く感じました。地図に色がついている場所に、実際に大きな土石流が流れたという現実には、「見た目」ではなく「正確な情報」に目を向ける大切さを教えてくれました。

理科の授業というと、実験や公式を学ぶイメージが強かった私にとって、今回のような学びはとても新鮮でした。自然現象を知識として理解するだけではなく、それが人の命や生活とどう関わっているのかを学ぶこと。それこそが、理科を学ぶ意味なのだと気づかされました。

また、「災害を経験していない人が、それをどう受け取り、伝えていくか」も大切なテーマだと思いました。先生も、「私は当時いなかったけれど、現地の人から教えてもらったことを、次の世代に伝えていきたい」と話してくれました。私はその姿勢に強く心を打たれました。

来年度から私は高校生になります。この先もっと多くの知識や経験を積んでいく中で、今回の授業で学んだ「命と向き合う学び」を忘れずにいたいのです。そして、もし自分の身近で災害が起きたときには、ハザードマップを手に取り、そこにある情報を信じて行動できるようにしたいと思います。

優秀賞(国土交通事務次官賞) 絵画(小学生)の部



題名「かるたで災害そなえよう」

江東区立豊洲小学校

4年 松本 桐花さん

身近に感じた土砂災害

目黒区立不動小学校

三年

豊岡 楓

学校で、防災について書いてある「東京マイ・タイムライン」をもらいました。土砂災害なんて遠くの話だろうと思いつながら東京都の「土砂災害警戒区域等マップ」を調べてみると、家から歩いて10分のところにあぶない場所があったのでおどろきました。

行ってみると、大きなたて物のうらに急なしゃ面があり、そこをコンクリートでかためてありました。ところどころメロンみたいなヒビが入っていたり、大きなシートもかかっていました。

その近くにも、家よりも高いがけがありました。がけに草が生えていたので目立たないのですが、家のすぐうらに金あみでできたフェンスがあって、そのすぐ向こうがけになっていたので、近すぎてドキドキしてしまいました。

東京都が出しているパンフレットによると、土砂災害から安全ににげるためには、三つのことが大切だそうです。一つ目は「土砂災害のおそれのあるか所を知る」。二つ目は「ひなんばしょ・にげ道を知る」。さい後は「きけんなときに出されるじょうほうを知る」です。

さい近は急に大つぶの雨がふりだして、しばらくふりつづけるゲリラごう雨も発生しています。

先日も急な大雨とカミナリで、学校から帰れなくなったことがあります。その時はカミナリが落ちて、学校の電話もつながらなくなりました。通学路によっては、ひざ下まで水が流れている場所もあったそうです。

このように、ごう雨が始まってしまうと外へ出てい動するのはむずかしいです。また、スマホを持っていたても、つながらなくなるかもしれません。

何でもない日に、家のまわりや通学路のあぶない場所を

かくにんしたり、災害にそなえてじゅんびしておくことで、土砂災害が起きてもぎせいをへらせるのではないかと思いました。ふ通の住たくがいに住んでいても、土砂災害は身近で起こるかもしれないと思いました。